

＜2016 年 3 月期第 3 四半期決算説明会 主な質疑応答＞

開催日時： 2016 年 2 月 3 日（水）17:45～18:30

出席者： 常務取締役 柳瀬 英喜
執行役員 富永 浩史
執行役員 岩本 秀之

・全体的な業績に対する感触は。

自動車生産関連事業は、タイ・北米が想定以上に悪い。自動車販売事業も世界経済低迷の影響で想定よりも環境は厳しい。エレクトロニクス事業は、スマートフォン事業の失速が見られるが想定範囲内。

第 4 四半期でガス案件の減損処理が発生する見込みであるが、当期純利益の通期修正計画 350 億円からは、大きく乖離しないと考えている。

・新たな特殊要因発生の可能性と、ガス案件の追加ロス発生の可能性は。

新たな特殊要因の発生は、現時点では想定していない。

ガス案件は、下方修正発表時よりも前提油価が下落していることはマイナス要因ではあるが、埋蔵量の見直し等によるプラス効果もある。詳細な影響額については、現在検証中。

・金属本部の 3Q 業績を見る限り、通期計画達成は厳しいと思われるが、4Q 以降での生産廻り（特にタイ・北米）の見込みは。

北米の自動車生産台数は概ね計画通りに推移しており、鋼材の取扱量は堅調。鋼材取引では、資源価格下落による鋼材価格の低下が利益に及ぼす影響は大きくないが、アルミ溶湯事業が資源安の影響を受け収益性が悪化した。

タイはモデルチェンジした IMV が期待していたレベルまで達していない。タイから南米、中東、アフリカ向けの輸出が、想定を下回っている。

今後については、北米の景気が維持され、価格が現状と同水準であれば収益レベルは横這いを見込むが、当期発生したアルミプレミアムロスの発生は回避可能。メキシコ新工場での生産開始や、タイ、中国での自動車市場回復に期待。

・自動車販売における資源国を中心とした市場トレンドは。

ロシア、アンゴラ等の資源国において、今後も原油価格が 30 ドル前後で推移した場合、どのような影響がでてくるかまだ読み切れない。第 3 四半期ではアンゴラの業績が好調であったが、一過性要因なのか、今後も継続トレンドなのかは、現在調査中。

・自動車本部の 3Q 営業利益が、2Q 比で約 30 億円増益となっている要因は。

アンゴラの増益が主要因。

・アジア・オセアニアでの自動車販売状況は。

パプアニューギニアは、台数、利益ともに前期対比伸びているが、今後更に大きく伸びるまでには至らない。その他地域ではメコン地域が利益貢献している。

・エレクトロニクス事業の好調は来期以降も見込めるのか。

スマートフォン関連は、第4四半期以降は今迄のような伸びは期待できない。一方で自動車関連は、今期以上の伸びを期待しており、スマートフォンと自動車関連でオフセット、もしくは若干のプラスをイメージしている。

・CFAOの状況は。

マダガスカル地域の自動車事業は、日産・いすゞの取扱終了によるマイナス影響が続いている。一方、西アフリカでの自動車事業・医薬品事業は堅調であり、マダガスカルでのマイナス影響をカバーする構図は変わっていない。コンゴやガボンについては、資源価格下落の影響を受け苦戦しているが、コートジボワールは好調に推移。東アフリカは、VWとの提携効果を今後期待している。コンシューマーグッズは、カルフルーの償却費用が先行しているが想定通りで推移。

・CFAOの今後の業績見込みは。

急激な回復は見込んでいない。自動車事業は横ばい、コンシューマーグッズは、カルフルー事業の今後の展開に期待したい。アフリカ市場のトレンドは大きく変わらないと予想しており、CFAOの業績は、自動車事業を含め全体的に横ばいで推移するものと思われる。

・CFAOの投資実績は。

自動車・自動車以外の分野、各々四半期毎に数十億円程度投資を実施。

以上